

平成 26 年 7 月 29 日

各位

会 社 名 株 式 会 社 ラ ッ ク
代表者名 代表取締役社長 高 梨 輝 彦
(JASDAQ・コード番号：3857)
問合せ先 I R 広 報 部 長 岩 崎 勝
電 話 0 3 - 6 7 5 7 - 0 1 0 7

【訂正】ラック レポート 2014 SUMMER の発行に関するお知らせ

本日 11 時 30 分に公開した PR 情報、「ラック レポート 2014 SUMMER の発行に関するお知らせ」の文末に記載の PDF へのリンクが、表記上の URL と実際にリンクされている URL が異なっていましたので、別添のとおり修正致します。

平成 26 年 7 月 29 日

各位

会社名 株式会社 ラック
代表者名 代表取締役社長 高梨 輝彦
(JASDAQ・コード番号：3857)
問合せ先 IR 広報部長 岩崎 勝
電 話 03-6757-0107

ラック レポート 2014 SUMMER の発行に関するお知らせ

株式会社ラック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：高梨 輝彦、以下ラック）は、昨今の情報セキュリティ事故の頻発による企業のセキュリティ意識の高まりを受けて、ラックが把握しているセキュリティ関連の情報と情報システム関連の技術情報などを掲載した「ラックレポート 2014 SUMMER～サイバー攻撃の手段に悪用される、「脆弱性」の対処に関する考えを掲載～」を公開しました。

日々報道されるサイバーセキュリティ関連の被害。10 年前の単純なウイルス感染から、情報や金銭を直接狙った悪質な攻撃が増加し、IT 管理者の不安も増しています。

ラックは、サイバー事故の緊急対応チーム「サイバー救急センター」、日本最大級のセキュリティ監視センター「JSOC（ジェイソック）」、日本で最初にサービス提供を開始したセキュリティ診断サービスなど、常にお客様のセキュリティ高める活動を展開しています。これらの活動の中でも、特に注意を要するのが「脆弱性対応」です。

昨年末からも、Internet Explorer の脆弱性、OpenSSL の脆弱性、Apache Struts の脆弱性といった深刻で危険な安全上の欠陥が報告され、その対応でだれもが苦しんでいます。

ハッカーによる攻撃だけではなく、突然発生する EC サイトのパフォーマンス問題や、運用の不手際など、技術面だけではなく、組織体制や人材といった多種多様な「脆弱性」は、人間が携わる活動において必ず内在しているもの、と捉えてよいと思います。この「脆弱性」に対して、私たちはどのように向かい合うべきなのでしょうか。

ラックのシステム開発、セキュリティ技術の精鋭が執筆したレポートを、皆様の運用のアイディアにご活用ください。

本レポートは、当社 Web サイトから無償でダウンロードできる形で提供いたします。

「ラック レポート 2014 SUMMER」

http://www.lac.co.jp/security/report/pdf/20140729_lacreport_j001t.pdf

以上